

FOCUS UP①

天才キッズと美人プロボウラーがガチンコ対決! キミは『ジャンクSPORTS』を見たか?



▲聡太くん(円内写真)と本間プロが対決した障害物レーン(日本ボウリング場協会のFacebookより)

去る8月16日に放送されたフジテレビのスポーツバラエティー番組『ジャンクSPORTS』内で、“天才キッズ VS 美人プロボウラー”と銘打ったボウリング対決が実現した。トリッキーなガチンコ三番勝負が全国のお茶の間を大いに沸かせたが、「残念ながら見逃した」というボウリングファンのために、対決の様様を紙上再録!

『ジャンクSPORTS』はダウンタウンの浜田雅功氏がMCを務める人気番組。今回は「プロ VS 天才キッズSP」と題し、スポーツ各界の次代を担う有望ジュニア選手がプロに挑む特別企画が8月16、23日の2週にわたって放送された(注:地域によって放送日は異なる)。

16日に放送されたボウリング対決では、大阪在住のキッズ

ボウラー・水野聡太くん(7歳)が人気P★リーガーの本間成美プロ(47期)に挑戦。解説を現女子プロ界の“絶対女王”姫路麗プロ(33期)が務めた。

聡太くんは利き腕の右を上、左手を下にしてボールを抱え込むように構え、アプローチを小走りに駆けてリリースする独特の両手投げ。それでも抜群のコントロールを誇り、自己ベストのスコアは215というから、

文字通りの“天才キッズ”だ。

一方の本間プロは2012年にLBO(日本女子ボウリング機構=13年解散)でデビューし、14年のプロテストに合格してJPBAに転じた異色のキャリアの持ち主。171㍉の長身から繰り出すスピードボールが魅力のスレンダー美人だ。

収録会場は東京ポートボウル。対決レーンの中央には“浜田大明神”なる障害物が鎮座して視界からピンを遮り、ボールを通すコースは左右両端に各30㍉ほどしかない。意地悪なまでに難度の高い設定が視聴者の興味を誘った。

三番勝負の第1ラウンドは「ストライク対決」。クリア条件は3投以内にストライクを出すことだったが、聡太くんは1投目ガター、2投目は障害物にぶつけてしまい、早くもピンチ。それでも3投目はキッチリ修正し、クリアはならなかったものの9本を倒して“魅せた”!

対する本間プロは正確なコントロールで1投目8本、2投目9本を倒し、3投目で見事ストライク。第1ラウンドはプロが勝利した。

第2ラウンドは「赤ピン狙い撃ち」。③⑥ピンを除く8本がセットされ、⑨ピンの位置に置

かれた赤ピンだけを3投以内に倒すというもので、本間プロは1投目であっさりクリア。聡太くんはまたしてもガタースタートとなったが、さすがは天才キッズ、2投目にクリアしてこの勝負は引き分けに。

ラストの勝負はサドンデスの「スプリット対決」。通常、残りピンとしてはあり得ない⑦⑧⑨⑩の4本を先に全部倒したほうが勝ちというルールだ。



▲解説の姫路、対戦者の本間両プロとソーシャルディスタンスを保って記念撮影(父・武氏のFacebookより)

これにはさすがに2人とも苦戦。ボールを右サイドから大きく曲げ、⑦⑧ピンのポケットを攻める聡太くんに対し、本間プロは⑨⑩のポケットを狙うが、ピンは思うように真横に倒れてはくれない。

2人とも1本、2本を倒すの

が精一杯で、この勝負は時間切れドローに終わるのでは…と思われたが、何と11投目に本間プロが奇跡のクリア! 三番勝負は2勝1分けて本間プロが勝利して面目を保ち、安どの笑顔を見せた。

一方、笑顔で対決を楽しんでいた聡太くんは、敗北が決まると一転、無言のまま両目に大粒の涙を浮かべて悔しさを露に。その表情がまた愛らしく、思わずもらい泣きした(!?)ご婦人も少なくないだろう。

近年、ボウリングは「安近な」コンテンツとしてテレビのバラエティー番組に重宝されている。取り上げられ方にもよるが、ビギナー開発という観点から見れば、これほどありがたいことはない。地上波の電波に乗る番組には「たまたま見ていた」という視聴者が、常に多数存在するからだ。

SNSの普及で、どんなマイナーなジャンルでもヘビーユーザーには容易に情報が届く世の中になった。だが「たまたま見てハマった」というような、前段階のきっかけがなければヘビーユーザーも生まれない。『ジャンクSPORTS』における今回のボウリング対決は、間違いなくビギナー開発の一助となったはずだ。

FOCUS UP②

岡田大明BPAJ専務理事に聞く、新型コロナウイルス渦中のボウリング界の今

いまだ収束の見えない新型コロナウイルス禍に、経済は大きなダメージを受けているが、ボウリング業界もまた例外ではない。ボウリング場の現状や、この難局をどう乗り切ろうとしているのかを、公益社団法人日本ボウリング場協会(BPAJ)の岡田大明専務理事・事務局長にお聞きした。

制約があるなかの営業

例年は6月にBOWLEXという形で、BPAJ全国大会とともに定時総会が行われてきたが、コロナ禍で大会は中止に、定時総会は延期になっていた。

「所管の内閣府から、今年は定時総会の時期をずらしてもいいという通達があり、先延ばしになっていましたが、8月6日に品川プリンスホテルで開催しました。密を避けるために、最小限の理事・監事の方だけに出席していただいて、それ以外の代表者には書面議決書を提出してもらうという形になりました」

地域差はあるが、多くのボウリング場が約2カ月間の休業要請に応じ、営業再開後も、感染予防のガイドラインに沿ったさまざまな制約、足かせのなかでの営業を強いられている。

「日場協でも感染防止のため

のガイドラインを、経済産業省の指導の下作っていますが、現場からの声で多いのは、投球時のマスクの着用の義務化を外してほしいということ、1レーン空けて、しかも1レーンに入る人数が制限されているのを緩めてほしいということです。本来は8月に入ったら、イベントやライブなどの観客の人数制限が緩和されるのに伴って、日場協のガイドラインも見直ししようということでしたが、感染者数が増え続けていたため、5月に作ったガイドラインがそのまま生きている形です。一度には無理でも、少しずつでも緩めてもらえるように調整中です」

マイボウラーに限っていえば、9割方は戻ってきているそ



▲おかだ・ひろあき/1963年3月13日生まれ。北海道出身/1997年日本ボウリング場協会入局。2010年から事務局長、2012年から専務理事・事務局長

うだが、一般客の足がなかなかボウリング場に向いていないようだ。とくに大きな収益源である企業のコンペや子供会など、団体予約がほとんどゼロに近い状態が続いている。

with コロナの先も…

「会費が負担になっていることもあって、退会をするセンターも出てきています。日場協としても7、8月の2カ月分の会費は免除にすることを決定していますが、それ以降も減免してほしいという声が多いです。9月にオンラインで事業委員会と理事会が行われますが、そこ

で事業費をどれだけ削れるか、どれだけ会費をバックできるかを具体的に検討することになると思います。一方で中里(則彦)会長の考え方もそうですが、こういう時期だからこそ、協会としてある程度事業はやるべきではないかという意見もあります。お金をかけてというよりも、センターにお客さんが来てもらうための、フリータイムの企画などを模索することになると思います」

BPAJの全国大会に続いて、宮様チャリティー大会の中止も決定するなど、事業の中止や縮小が続くなか、協会が例年発表している長寿ボウラー番付は、今年もすでに集計が終わり、間もなくポスターも出来上がるそうだ。

「番付の掲載人数も、今年はさすがに減るだろうと思っていましたが、増えているんです。なにしろコロナでは最も注意しなければいけない高齢者の方たちが対象なので、ボウリング場さんも細心の注意

を払いながらだと思っていますが、前向きに取り組んでくださって、少しでも、昨年を上回りました」

リモートワークの普及など働き方の変化や、マスクや手洗いの習慣化はもちろん、無意識のうちソーシャルディスタンスをとるなど、新型コロナウイルスによる社会変化、行動変容は、われわれの日常を大きく変えている。

「コロナが収束しても、そうした変化がコロナ以前に完全に



▲昨年名古屋で行われた総会風景。今年はコロナ対策で、本人出席はわずかに14名だった

戻るとは思えないです。ボウリング場の営業もそうですし、ボウラー団体の大会の形なども変わるのかもしれない。だからウイズコロナと同時に、今からアフターコロナの戦略も練っておく必要があるのかもしれないですね」